

## テーマ 「道徳教育におけるWebページの活用」

提案者 前橋市立桂萱中学校 奈良 靖宏

### 1.提案の概要

コンピュータと道徳教育。一見なじまなような二つのものであるが、「パソコンやインターネットを使い、一つのコンテンツを作成し利用することで、道徳教育推進のための有効な情報提供が行え、道徳教育が推進できるのではないか。」という考えが本提案の趣旨。

今後の学校教育の中では豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成することが大切である。その中でも児童・生徒たちの道徳性を養うことが大切である。美しいものや自然に感動する心、正義感や公正さを重んじる心、生命を大切に、人権を尊重する心、他人を思いやる心など、それらすべてが、人間が人として生きていくために大切な心であると考え、そのような心の育成のためにコンピュータやインターネットを有効利用できると考え、Web上の道徳教育資料集「道徳の窓」を作成し、活用した。

#### (1)資料集「道徳の窓」について

この資料集はHTMLで作成し、勤務校の校内ネットワークや外部Webページに必要な応じて公開している。トップページの「はじめに」を選択すると、学習指導要領における年間指導計画作成についてのポイントや、群馬県の道徳適性検査の結果等の資料が表示される。次に「資料の窓」を選択すると、読み物資料・視聴覚資料・ジレンマ資料等、道徳の授業に使われる資料についてまとめている。



#### (2)「道徳の窓」の活用

本校では、職員室や各教室が校内ネットワークでつながれているので、資料集「道徳の窓」がどこからでも利用できる。職員室で先生方が道徳の資料を探するときや教材研究をするとき、また、年間計画の見直しをする際の参考にするために活用している。

#### (3)今後の活用等

本校の外部Webページには「教育リンク」検索のページが作成されており、そこにコンテンツ「道徳の窓」はおかれている。検索のページにはそれ以外にもたくさんのページが作成されている。たとえば、Web会議室のページや、Webチャットのページなどもあり、道徳教育推進の一助にしている。先日もWeb会議室を使い、道徳討論会「国際テロを考える。」を実施した。

### 2.研究協議の概要

吾妻町立原町中学校 伊藤 均 先生

素晴らしい実践だと思います。道徳で子どもを育てる。情報を活用した授業。スライドを見て、心が揺れ動く。実践化につながればいいと思うのですが、日常生活の中でどのように実践化しているのでしょうか。

奈良先生：清掃、学活、給食などで活動として表れてきている。また、昨年の生徒会活動では、海外支援やNGOなどの活動を通して、校内で基金や物品を集めて海外へ支援した。物品の受け付けから発送までを生徒会本部が一手に引き受けて活動した。

東京都太田区立大森第二中学校 松田先生  
教室の中での授業で掲示板での意見交換をしたとのこと。誰が書き込みをしているのかわかる状況で、よい点や悪い点があると思うが、人間関係に影響はないのか。

奈良先生：授業の前には、相手を誹謗することはやめようというルールがあり、授業前にルールを確認しました。本当は教室内での意見交換だけでなく、アメリカや沖縄の学校とリアルタイムでチャットの意見交換がしたかった。インターネットは他地域と同時に意見交換ができるという利点がある。人間関係という点では、ほめる言葉をたくさん使ったり、ほめ合う活動を多くしようということを心がけている。

### 3, 指導講評

前橋市教育委員会 指導主事

情報ネットワーク ネット担当 折田 一人 先生

現在、非常な勢いで情報技術が進んでいます。通信速度も1.5Mだとか、最近では家庭でも8M、12Mだのともものすごい早さで進んでいます。子どもたちでさえ、携帯を持ち歩き、メールをして楽しんでいます。私も今日、ここまで来るために列車の時刻を列車Webで調べ、マピオンで地図を調べて印刷してきました。また、桂萱中のWebページを確認し、パワーポイントを使って話すことをまとめてきました。日常的にコンピュータを使う環境になってきています。便利な道具だから学校でも先生、生徒がどんどん使ってほしいです。なんでもパソコンだインターネットだというわけではないでしょうが・・・。

先生の道具として

情報を学校でどう管理するか。今まで物理的な媒体で（紙、ビデオ等）机の上にあったものを引き出しの中へ、収まらなくなってくると足下へ、足下が多くなってくるとロッカーへ・・・そしてついには行方不明。どうでもよくなってきてゴミとなる。あちらこちらに分散してしまったものを整理整頓するために利用する。情報をデジタル化して管理し、校内ネットワークを活用して、いつでも情報を引き出せる環境にしておく。情報の一元化

教材提示の道具

今まではビデオ、OHP、スライド、掛け図、プリント等の複数の視聴覚機器を使い分けていた。ちょっと前の世代は家庭でもテレビが普及し、テレビよりもより強い刺激を与えないと記憶に残らなくなっている。最近の子ども達はというと、テレビゲームの刺激よりもインパクトのあるものを与える必要

が出てきている。

教材・資料提示の道具

コンピュータを活用した資料の提示については、文字、静止画、図表、音声等のあらゆるメディアを使用することが可能になってきました。教材、資料をいつでも提示可能となったわけです。

自分の考えの表現・発表・発信

今までは発言する、紙に書くというものが多く、全員が発言するのは難しく、意見交換も活発には行いづらかった。パソコンを使うことで意見・考えを蓄積し、深まりや変化を知ることができる。今後は海外との意見交換も可能になってくるだろう。

今後必要と思われること

必要条件1

校内インフラの整備

・いつでもどこでも情報にアクセスできる環境を作る。

・マルチメディアのデータを提示・保存できる環境を作る。校内ネットワークの整備

必要条件2

職員のコンピュータ活用の促進

・校内研修を行う。コンテンツ、使いやすい環境を作る。

必要条件3

児童・生徒のコンピュータ活用の促進

・情報教育の可能性を知る。

今後の課題・可能性

・デジタル化、データベース化し、自宅からもアクセスして利用する。

・学習の場の拡大

・情報化のメリット・デメリットに対応した指導をする。コラボレーション

・学習履歴の蓄積、評価をする。

デジタルポートフォリオ

・コンピュータ（無機的）を有機的なものへ

今後、学校地域のリーダーとして、情報教育を推進してほしい。日本はとかくやる前から石橋をたたいて壊してしまい、アジア・ヨーロッパは走りながら考えるとされている。まずは、やってみて走りながら考えてみてはどうだろうか。最後に、イギリスのある先生が、「コンピュータを活用することはエキサイティングよ。先生がわくわくすると思うことをやらなければ・・・！」